

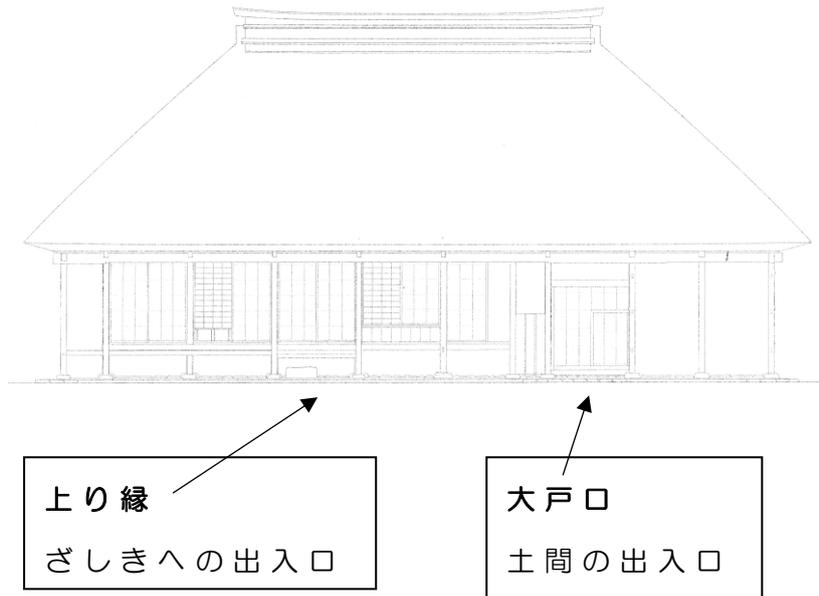
## 旧御子神家住宅

(1) 歴史 安永8年(1779)、現在の南房総市丸山町石堂に建てられました。本建物は、その後の生活様式の変化に合わせて、様々な改造や増築を行いながら、使われてきました。昭和44年(1969)に重要文化財に指定された後、現在地に当初の姿に移築復原され、一般公開しています。

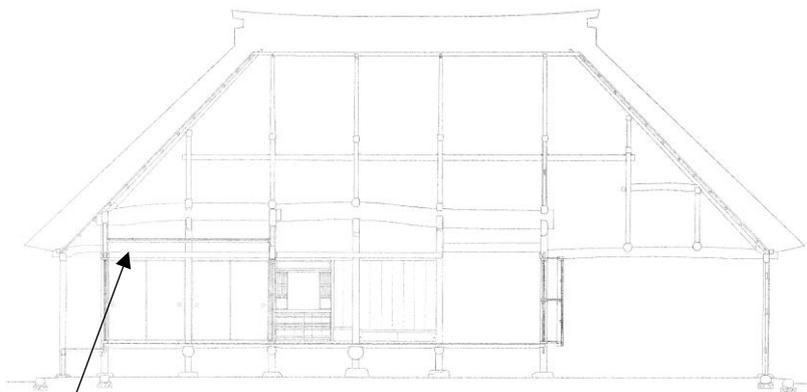
(2) 建物概要 安房地方に混在する分棟型と直屋<sup>すこや</sup>型のうち、後者に属する中型農家で、平面も当地方の一典型で、当初の建物構造を残していました。

(3) 普請帳について 御子神家には安永8年の「普請帳」が残されていました。近くの寺に山代を、木挽きや大工、屋根屋に手間賃を支払い、針金や釘等を購入して家造りをし、村中の人からお祝いをもらったことがわかります。当時の農村での家造りの様子を伝える貴重な記録で、建物と共に重要文化財に指定されています。

### (3) みどころ



**梁組** 土間を除く座敷の桁行五間・梁間三間半に上屋組みし、三方に下屋庇をかけ、梁は二重構架です。丸太を大鋸で縦に引いた松材を梁に使用しています。



**天井** でい・しもでいは竿縁天井で、その他は吹き抜けです。後になんど・ちゃのまに根太天井が張られました。

